

組合立国保成東病院が 平成22年4月に 地方独立行政法人となります。

Vol.5

「地方独立行政法人さんむ医療センター」としての新たなスタートを4月にひかえ、今後行っていく医療の内容についての検討が進められています。

第三回地方独立行政法人さんむ医療センター評価委員会

1月21日に開催されました第三回地方独立行政法人さんむ医療センター評価委員会では、第二回に引き続き、どのような医療を提供していくかを方向づける「中期目標」と「中期計画」について、目指すべき将来像を見据えて、より具体的な審議が行われました。

必要とされる医療

医師不足等による医療機関の休止や閉鎖などの医療環境の変化や、少子高齢化による人口構造の変化によって、必要とされる医療も大きく変わってきました。

日常的な健康の維持向上や発病

から回復期までの医療に加え、介護から在宅復帰までの、より切れ目のない包括的なサービスが必要とされるようになりました。また、山武地域では救急医療や産婦人科など、地域外の病院への搬送・受診が増加しており、整備が必要とされています。

地方独立行政法人としての将来ビジョン

さんむ医療センターは、健康づくり、医療、福祉(介護)において、現在の成東病院が持つ機能を強化してまいります。多様な医療を一つの医療機関で完結させることは、残念ながら不可能です。

それぞれの分野で、さんむ医療センターを中心として、診療所や介護施設、近隣の高度・先進医療機関と連携し、山武地域の医療の高度化と効率化をはかり、必要な医療について提供してまいります。

〈山武郡内の救急搬送状況〉

東金病院 5.8%	成東病院 20.3%	大網病院 8.5%
九十九里病院 13.7%	その他管内 10.5%	その他管外 41.3%

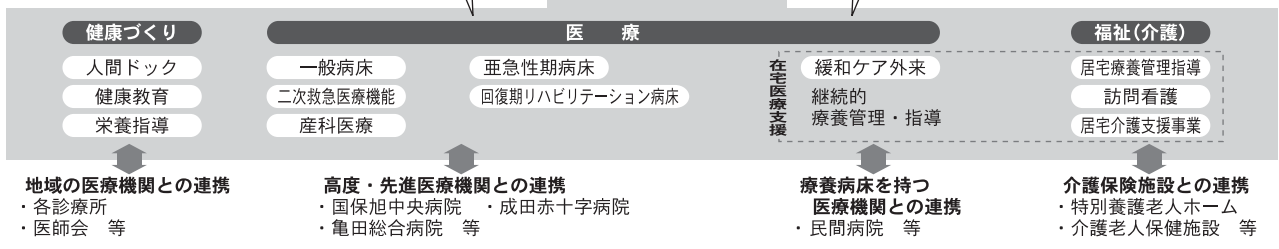
〈山武市の国保加入者の受診割合〉

(外来) 成東病院 8.7%	(入院) 成東病院 17.4%
旭中央病院 5.5%	旭中央病院 15.2%
千葉大附属 1.1%	成田日赤 5.0%

〈将来像〉

さんむ医療センター (地域連携型病院)

“さんむ医療センター”は二次救急を担うとともに、近隣の高度・先進医療機関と連携し、急性期以降の医療の後方支援として、回復期リハビリテーション病床を開設します。また診療所や介護施設等との連携のもとで、日常の健康維持向上から医療・介護を経ての在宅復帰まで、切れ目のない医療を提供し、地域に密着した信頼される病院を目指します。



評価委員会では、必要とされる医療をどのような形で実施していくのか、また人件費抑制や医業収益向上などをどのように行っていくのかについて、さらに審議を行ってまいります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

ホームページをご覧ください
独法化の経緯、評価委員会の会議資料や議事録は、市のホームページで見ることができます。
(<http://www.city.sammu.lg.jp/section/hokenfukusi/kenkou-sien/news/narutou-hp.htm>)

問 国保成東病院 組合解散・地方独立行政法人移行準備室
☎(82)2521(内線2329)

問 健康支援課保健予防係
☎0479(80)8383